

『たった一つの大切なこと』 ルカの福音書10章38～42節 2017.5.7(聖日礼拝説教より)

『…あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです…』 ルカの福音書 10:41～42

私たちを「友」と呼び、命を捨てるほどの愛を実感するほどに、あなたは主と結ばれているだろうか？

❶主の前に残念なこと…イエスは十字架に架かれる前、祈り静まるためにベタニヤへ。しかし迎えたマルタはその忙しさのあまりに苛立った(10:40)。クリスチャンにもタイプがあり、マルタのような活動派も、マリヤのような黙想派もどちらも主に喜ばれ用いられるもの！しかしここでマルタは、『…気が落ち着かず、色々な事を心配し、気を使った』とある。◆マルタの課題:①自分本位な奉仕…神様に聴くより、目の前の必要や人に目が留まり、現実には振り回された！「気が落ち着かず」は「脇へ逸れる」、「心配して」は「パニック！」の意。現実には忙殺され、余裕を失えば本筋から逸れる！素晴らしい働きの真中で混乱し、優先順位を見失う！②自分の分を超えた奉仕…マルタは言う『妹が私だけにおもてなしをさせている』と。私だけがどうして…！と感じたら手は止めて、『今やるべき、一番大切なことは何？』と御前に静まりたい！人には、それぞれ許容能力があり、その日に出来ることは限られている！神様の願いは「互いに助け合うこと」！自分の中に、疲れ、落ち込み、不平に気づいた時、手を止めて祈りつつ、働き方を見直し、相談し！委ね！暫し休憩する！…など示された！

❷主の唯一の願い…主は言われる『…どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです(10:42)』と。『どうしても必要な唯一のこと』とは何？このベタニヤの出来事の前に語られていた(10:25～37…律法の専門家と主の話、「良きサマリヤ人の喩え」)！神を愛する者は隣人を愛する！神の愛にとどまる者は、日々の厳しい現実、思いがけない災いも、主と隣人に支えられ、自分の分を果たしつつ委ねて、無理のない・感謝な働きとなる！具体的にはどうすれば良いのだろうか？マリヤは『主の足もとで御言葉に聞き入っていた(10:39)』。何をより、まず御声を聴く！何をすると、まず御言葉に支えられ、励まされ、知恵も力もいただくこと！神様を愛するとは？礼拝出席？讃美？献金？奉仕？伝道？お祈り…？どれも正解！しかし、神の声に聴き、それに従う以上の『愛』はない！

★あれもこれも忙しい日々…。まず御前に静まり、御声を聴き、慰めと恵みをいただいて一日を始めたい！それでこそ、人と正しく向き合い、それでこそ日々の重荷を、分かち合い、無理なく負える！これ以上に大切なことは他にない！